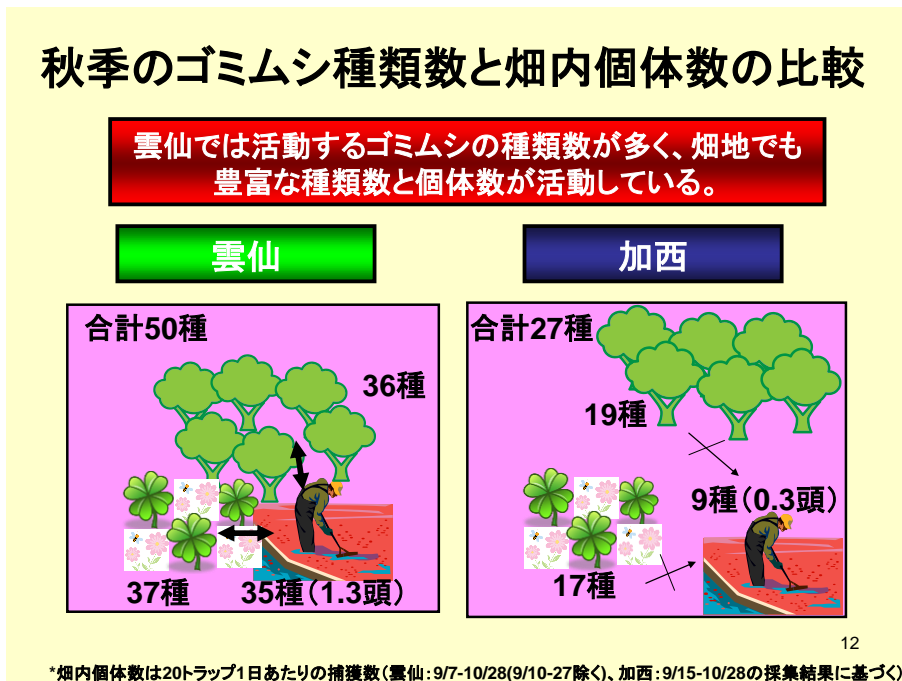


農地および周辺環境における土着天敵（ゴミムシ類）の多様性評価 ー長崎県雲仙市の栽培地とその周辺におけるゴミムシ類多様性ー

本藤 勝[○]（住友化学㈱）・海老名 潔（日本エコアグロ㈱）
中村 禎二・栗原一清（㈱大地の杜）

ゴミムシ類は、その捕食能力などから土着天敵としての活用が検討される以外に多様な環境に生息し、また比較的採集も容易なため環境評価の指標種としても注目を集めている。

長崎県の島原半島にある雲仙市周辺の農地（畑地）は、さまざまな露地野菜類が栽培されるが、石垣で区画されるだけで、周辺の森や草地と切れ目なく連続したところが多い。このような環境では、周辺の環境に生息するゴミムシ類が畑地においても有効に働くのではないかと考えて、昨年からは畑地周辺や畑地内のゴミムシ類の多様性やその働きを検討しはじめた。今回は昨年の秋季に調査した結果について報告する。



長崎県雲仙市と兵庫県加西市において、2010年9-10月に畑地およびその周辺の林縁と草地において出現するゴミムシ類をピットホール・トラップ法（誘引物なし）によって採集した（加西市は里山的環境であるが、畑地は水路などで区切られ、区画整備された地域事例として比較した）。

得られたゴミムシ類は、雲仙市では合計50種類（加西市27種類）、林縁36種（加西市19種）、草地37種（加西市17種類）、畑地35種（加西市9種）となり、また畑地で観察されたゴミムシ数は1.3頭（日/20トラップ）で加西市0.3頭より約4倍高かった。雲仙ではいわゆるオサムシ類、アオゴミムシ類、ゴモクムシ類、マルガタゴミムシ類などで加西より種類数が多かった。

雲仙市では周辺の豊かなゴミムシ類が畑内でも働く環境にあることが示唆されたが、今後はこれらのゴミムシ類が畑地で実際の程度天敵として有効に働いているかが課題である。

最後に一部ゴミムシ類を同定いただいた神戸大学の藤江隼平氏に深く感謝します。